

平三十
小論文

注意

- * 答えは、縦書きとし、全て解答用紙の決められた枠内に書き入れなさい。
- * 字数には句読点も含む。
- * 漢字は楷書、仮名遣いは現代仮名遣いで書きなさい。
- * 原稿用紙の正しい使い方にしたがって書きなさい。

受 検 番 号

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

自分というものは、だれにとつても一番身近な存在だ。人が何を考え何を思っているのかはよくわからないし、どんな生い立ちなのかもわからない。でも、自分のことなら当然よくわかつている。

そのはずなのに、改めて自分と向き合おうとすると、どうもよくわからない。「ここにいる自分」ははつきりと実感できるのに、それをとらえようとしても、どうにもつかみ所がない。

「自分とは何か」という問いをめぐってあれこれ思い悩む。これがアイデンティティーをめぐる葛藤だ。それに対しては、さまざまな答えを出すことができる。名前、所属や社会的地位、容姿・容貌などの外見的特徴、学業能力・対人関係能力・運動能力などの能力的特徴、性格的特徴など、自己のさまざまな側面について答えることができる。

でも、このような自己の側面をいくら並べ立てたところで、「ここにいる自分」というものは見えてこない。そうしたモザイク的に並べられた自己の諸側面の背後に、自分らしさの核心がある。そんな気がするのだが、それがつかめない。紛れもなくこの人生を生きている自分というものがいるのに、その姿をとらえることができない。

この行き詰まりを脱するひとつの手段として、僕が提案してきたのが、自己というものを実体視するのをやめることだ。自分というものをこの身体からだをもちここにいるものとみなすのではなく、たとえば「自分とはひとつの生き方である」とみなす。そうすると、自分を振り返るということが、非常に具体的にになり、やりやすくなる。そこでは「自分とは何か」という問いは、「自分はどんな生き方をしているのか」という問いに形を変える。

自分って何だろうなどと抽象的に考えていくと、わけがわからなくなり、行き詰まってしまう。でも、自分はどんな生き方をしているのかという問いなら、まずは自分がどんな人生を送ってきたのか振り返ればよい。そして、この先どんな人生になりそうか、自分はどんな人生にしたいのかといったことを具体的に考えてみればよい。

(榎本 博明)『自分らしさについて何だろう? 自分と向き合う心理学』による。

(注) アイデンティティー自己同一性。自分が自分であると実感すること。

モザイク||ガラス・貝殻・石などの小片をちりばめて図案にした装飾物。

寄せ集めた物のたとえ。

問 傍線部に「自分はどんな生き方をしているのか」とありますが、あなたは、このことを自分自身にあてはめたとき、どのように答えますか。本文の内容をふまえて、あなたの考えを具体的にわかりやすく述べなさい。ただし、字数は二百四十字以上三百字以内とする。